

甲斐駒ヶ岳&仙丈ヶ岳山行報告

【山行日】2022年 8月 26~27日(金土)

【集 合】岩舟支所P AM 2:00

【費 用】マイカー1台 : 21,900円

【メンバー】CL:鈴木 SL:廣瀬、石澤、小林、福島、

26日 晴れ 戸台仙流荘からシャトルバスで北沢峠まで行き、こもれび荘へ荷物を預け甲斐駒ヶ岳を周回コースで登りこもれび荘へ宿泊する。
岩舟支所P2:00=仙流荘 P5:30/6:00=北沢峠
6:50/7:05~仙水峠 8:00/8:10~駒津峰 9:20/9:30
~甲斐駒ヶ岳 10:50/11:30~駒津峰 12:30/12:40
~双児山 13:30~こもれび荘 14:35

去年同じコースで計画したが、南アルプスの山小屋はコロナの影響で営業休止となり断念した。今年は少し時期を早め、8月後半の土日に計画したが、



こもれび荘が満室で金土に変更し実施した。

岩舟支所を2時に出発し、北関東道から上信越道、長野道、中央道と走り、伊那ICで降りて戸台口の仙流荘に着く。金曜日でも駐車場は車が沢山止まっており、バス乗り場には大勢の登山者が並んでいた。我々もバスの乗車券を購入し、列の後ろに並び出発を待つ。6時前にバスが来て、順番に登山者を乗せて出発し、我々は3台目のバスに乗車できた。ここからバスは南アルプス林道を走り、約50分程で北沢峠に着いた。バスの停留所の反対側にこもれび荘があり、まずはこもれび荘で宿泊の受付をして、余分な荷物を預けて行く。バス停の隣にある



トイレまで行き、トイレを済ませストレッチを行って出発する。林道を山梨県側に少し下り、案内標識に従って左に仙水峠方面に進む。北沢駒仙小屋の先で北沢を渡り、北沢に沿って登って行く。シラビソの樹林帯の道をしばらく登るとゴウ口帯に出て、ゴツゴツした岩石の斜面を歩くようになる。しばらく歩く



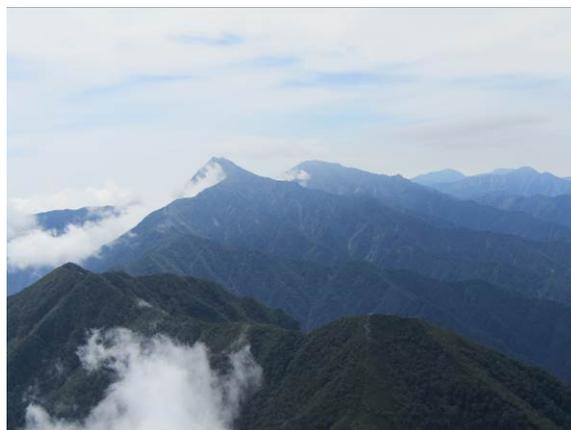
視界が開け、右には摩利支天が大きく聳え左には仙丈ヶ岳から北岳、間ノ岳が望める。

急登を登りつめ駒津峰に登ると、甲斐駒ヶ岳の白い岩峰が目の前に現れ圧巻である。陽光に照らされ



青空に抜け出た白い峰は、何にもたとえようがない見事な岩峰である。振り返れば仙丈ヶ岳や北岳、間ノ岳が望め、展望を楽しみながら小休止する。ここからヤセた岩尾根を進み、岩場の下りや大きな岩を乗り越えて下ると、六方石と言う大きな岩が並ぶ鞍部に出る。この先からは花崗岩の岩と白砂の登りになり、広い斜面をトラバース気味に登って行く。左手に駒ヶ岳山頂を望み、右手には摩利支天を見ながら滑りやすい斜面に登り高度をグングン上げて行く。摩利支天への分岐で小休止し、ゼリーや菓子を食べて水分を補給し呼吸を整える。花崗岩の急坂を九十九折れに登り、花

崗岩の大岩の間を登ると黒戸尾根からの道と合流する。さらに階段状の岩を登れば、石づくりの祠が建つ甲斐駒ヶ岳山頂に出る。山頂からの眺望は素晴らしく、仙丈ヶ岳が間近に見え北岳は左右に間ノ岳と農鳥岳を従え、美しい姿を見せている。さらにその左には鳳凰三山が聳え、その上に抜け出たように富士山が浮かんで見える。展望を楽しんだら記念写真を撮り、風が当たらない岩陰に移動してランチタイムとする。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、おにぎりやパンをいただく。K澤さんの煮タマゴやチャーシューが出て、豪華なランチとなった。ランチが済んだら後片付けし、皆さんがスマホに景色を収めたら下山開始する。下山は往路を戻すが、駒津峰への登り返しがきつく、ようやくたどり着いた。それでも計画より1時間30分早いので、休憩を取り疲れた足を休める。



ここから北西に尾根を進み、直ぐに左に折れて急坂を下って行く。鞍部まで下り、樹林帯の道を登り返すが、疲れた体にはきつい登りだ。最後の力を振り絞って双子山に登り、最後の休憩を取る。ここからはシラビソの樹林帯の道となり、軽快に下ってこもれび荘に到着した。皆さんが頑張ったお蔭で計画より2時間早く到着し、2階の指定された場所に落ち着いた。

女性達は更衣室で着替え、男性は自分の布団の上で着替える。荷物を整理して明日の準備を終えたら、外のベンチに移動し反省会を始める。ビールから始まりH瀬さんが持参した八海山をいただき、最後は地元のワインで締めくくる。夕食はいつものメンチカツかな

と思っていたが、今回はスープカレー等が出て美味しくいただいた。夕食時小屋の方から明日の天気と登山道の話があり、天気は午前中は良いが午後から崩れるとの事。明日予定している藪沢コースは大平山荘が休業中で、登山道が荒れているので利用しない方が良いとの事だった。夕食が済んだら部屋に戻り、明日のコースをどうするか悩みながら、布団にもぐり就寝した。

27日 晴れ こもれび荘から藪沢コースを登り馬の瀬ヒュッテ、千丈小屋を経由して仙丈ヶ岳に登り、小仙丈ヶ岳を経由してこもれび荘へ下山し、仙流荘で汗を流して帰宅する。

こもれび荘 5:00～大平山荘 5:10～馬の瀬ヒュッテ 7:10/7:20～仙丈小屋 7:10/7:30～仙丈ヶ岳 8:10/8:30～小仙丈ヶ岳 10:10～こもれび荘 11:35/12:15＝仙流荘P13:05/14:30＝岩舟支所P18:15

朝3時30分に起き出発の準備をして、4時からの朝食を食べに1階の食堂に行く。すでに食べ始めたグループもあり、急いで列の最後尾に並ぶ。朝食はバイキング形式で、品数は8品と少ないが野菜や卵



焼き、焼き魚等が並び、朝食には十分なおかずである。トレーに好きな物を載せ、空いている場所に置いたらご飯とみそ汁を取りに行く。朝4時に出来立てのご飯を食べられるので、スタッフの皆さんに感謝しながら美味しくいただいた。洗面所で歯磨きをしてトイレを済ませ、ザックを背負って外に出る。余分な荷物は宿の棚に置いて、最小限の荷物で登れるのでありがたい。全員揃ったらストレッチを行い、ヘッドランプを点けて出発する。宿の前の林道を西側の長野県側へ少し歩き、左手の登山道に入って大平山荘に下り立つ。山荘の横を通過して、樹林帯の山腹に付けられた藪沢コースへ入って行く。オオシラビソ

等の針葉樹林帯の薄暗い道を登り、やがて陽が上ると明るくなり、ヘッドランプを外し小休止する。今日も天気は良さそうで、明るくなった樹林帯の道を淡々と登って行く。廃道となっている藪沢大滝の観瀑台への踏み跡を分けると、谷間に入り、まもなく藪沢の河床に下り立つ。対岸に渡った所で休憩を取り、ゼリーや菓子をいただき疲れた足を休める。

ここはお花畑になっており、ミヤマキンポウゲやハクサンフウロ、マルバダケフキ等が咲き休憩にうってつけの場所である。ここから登る沢沿いの登山道はお花が多く、色とりどりの花や溪流、滝を見ながら楽しく登れる道だ。しばらく沢沿いの登山道を登り、藪沢小屋からの道を左から合わせると、登山道は藪沢を離れる。ダケカンバが大きく枝を広げる道を登ると、馬ノ背ヒュッテに着きベンチで小休止する。水が不足した人は水を補給し、水分を補給し一息つく。シカ避けネットの間の道を進み、ハイマツの道になると馬ノ背の稜線に出る。森林限界を超えた稜線は視界が大きく開け、左前方にこれから登る仙丈ヶ岳の山頂が望める。振り返ると昨日登った甲斐駒ヶ岳が鋸岳を



従えて大きく聳えていた。目の前にすり鉢状に広がる地形が、これから進む藪沢カールだ。

馬ノ背の稜線を進んで、カールから続く急な斜面を登り切ると、カールの底に位置する仙丈小屋に着く。小屋前のベンチで休憩を取り、果物や菓子を食べてエネルギーを補給する。千丈小屋は太陽光や風力発電を備えた素敵な小屋で、ロケーションが抜群な場所に建ち、一度は泊ってみたい小屋である。展望を楽しみ、トイレを済ませたら山頂に向かって出発する。カールを馬蹄形に囲む稜線の北端に取り付、急な岩稜を登ると仙丈ヶ岳山頂に着く。



山頂からの眺望は抜群で、北に花崗岩の白い岩肌が輝く甲斐駒ヶ岳、南には鋭角にそびえる日本第2位の北岳、その隣には重厚な山容を横たえる間ノ岳と、南アルプス北部の名峰が連なる。山頂標識の前で記念写真を撮り、展望を楽しみながらご褒美のナシやゼリーをいただく。

展望を十分に楽しんだら下山開始し、カールを囲む稜線を南から東へ半周する。岩稜の稜線は気持ちよく歩け、いくつかのピークを越えて小仙丈ヶ岳へ向かう。さらに北東に延びる小仙丈尾根を進み、ハイマツと砂礫の広々とした尾根を下り、小仙丈ヶ岳に登り返す。急な登りは疲れた足に堪えるが、何とか登り切ると大展望が得られる。最後の展望を楽しんだら下山開始し、北沢峠までの長い長い下りが始まる。



少し下ると樹林帯の下りになり、大滝ノ頭で藪沢小屋からの道と合さる。ここから幾分傾斜がゆるんだ尾根上を長々と下り、2合目で道が分かれる。どちらを進んでも北沢峠に行けるが、左の尾根通しの道を下って行く。多少のアップダウンを繰り返しながら尾根上を進み、最後に急坂を下ると北沢峠に下り立つ。バスの待合所に行き、帰りのバスの順番を取る。イスに番号が付いており、我々は19番から23番のイスを確保する。イスに荷物を置いてこもれび荘に行き、預けた荷物を受け取りザックに詰め直す。バスの出発時刻は13時10分だが、乗客が多いので臨時便が出るとうわさが聞こえてきた。バス停近くで待機していると12:10分に係の方が見え、順番にバスに乗せ12時15分に出発した。「早く降りて来て良かったね」と顔を見合わせ喜んだ。バスに揺られること50分で仙流荘駐車場に着き、靴を履き替えたら仙流荘に移動しお風呂で汗を流す。風呂で汗を流したら、仙流荘の食堂で昼食をいただく。

我輩が風呂から上がると、女性達はすでに上がっていてカツライスをオーダーしたという。我輩も同じカツライスをオーダーし、全員同じものをいただいた。帰路も同じ道を通り、伊那ICから中央道に入り、岡谷JCTから長野道、更埴JCTから上信越道を進み計画より1時間15分早く岩舟支所に帰着した。2日間予想外の好天に恵まれ、南アルプスの名峰2座を楽しく登ることが出来、大満足の山行となった。

